

別紙様式1		令和7年度 学校評価表				(中間)				三原市立糸崎小学校				校番(2)							
a 学校教育目標		「学び つながり 挑戦する子ども」 —地域を支え 世界で活躍する姿をめざして—				b 経営理念 ミッション・ビジョン				【ミッション】(自校の使命)郷土に誇りをもち、自ら考え、判断し、決断して行動できる児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ○互いに学び合い挑戦し続ける学校 確かな学力・豊かな人間力を育む学校 地域・郷土を愛する心を育てる学校 児童・保護者・地域から信頼される学校 ○(い)意欲をもって学び合う子(と)友達へポジティブに関わる子 (さ)さわやかな挨拶と返事をする子 (き)決めたことを最後まで粘り強くやりきる子 ○指導力向上・自己成長に努める教職員 徹底・協働して組織的に動く教職員 児童・保護者・地域から信頼される教職員											
評価計画												自己評価				改善方策		学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	担当	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント					
							h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ						
確かな学力の育成	主体的・自律的に学び合う児童の育成	基礎・基本の学力定着	○朝学・個別指導・家庭学習の徹底 ○漢字検定・算数検定の実施 ○多様な学びを選ぶことができる環境づくり(ICT器械の活用 思考スキル 図 文 絵等) ○読書環境づくりの推進	・全国学力学習状況調査・標準学力調査(国語科・算数科・理科)で学級平均値が全国平均を上回る	100%	教育研究部	国語110% 算数101% 理科110%		105%	A	・全国学力学習状況調査の6年生の平均値は、国語74%(全国66.8%)、算数59%(58%)、理科63%(57.1%)で、3教科とも全国平均を上回った。 ・学期末テストの到達率は、国語知77%、思76%、算数知87%、思82%で、算数は目標値を達成したが、国語は達成しなかった。学期末テストの前に十分に復習をすることができなかったのではないかと考えられる。 ・漢字検定で90点以上の児童の割合は、72.4%となり、目標値を達成できなかった。2回とも目標値の80%を達成した学年が1クラスしかなかった。90点以上を目標として練習を行っている児童が少ないことが原因と考えられる。 ・算数検定の結果は、2月の時の結果を記入する。	・学力調査については、出題問題の類似問題や、既習事項の振り返りを朝のドリルタイムで行い、解き方の解説を行うことで、定着を図る。 ・学力調査・学期末テストについては、国語科では、何について書かれた資料なのかを読み取ることができるように、授業で文章の部分だけを取り上げて考えるのではなく、文章の読み方も考えさせるようにする。算数科では、問題文の状況をイメージできるようにするために、具体物や図を積極的に用いる。また、問題解決場面では、表・式・グラフを関連付けて考える活動を設定することで、問題文をもとに言葉の式に表し、式の意味を児童が説明できるようにする。 ・漢字検定は、90点以上が目標であることを児童に周知し、目標に向けて練習することを徹底する必要がある。	5	0	0	・学力を向上させるには、授業内容のポイント、並びに理解するヒントなど、わかりやすくする工夫が必要である。 ・質問等発言することには勇気がある。どんな些細なことでも褒めることで自信を持たせてほしい。 ・よくがんばっている。学力向上の近道はなく、こつこつやっっていくしかない。 ・デジタルツールの活用により、教育はめまぐるしく進化を遂げていると感じる。 ・目標値に対し、9月時点でほぼ達成している。					
				・学期末テスト(国語科・算数科)で、知識・技能、思考・判断の平均が80%以上の児童の割合	80%		国語76% 算数84%		国語95% 算数105%	B											
				・漢字検定で90点以上の児童の割合	80%		72%		90%	B											
				・算数検定で該当学年の内容を達成した児童の割合	80%																
				○算数科「糸小版学び合い」授業の確立 ○学び合いのファシリテート力向上 ○問いの追究(必然性・単元を貫く・各時間の問い) ○振り返りツール(R80)の充実 ○学習規律の徹底	・自分のことアンケートで肯定的評価をした児童の割合「(20)算数の授業は、よく分かる」		90%	88%		98%							B	・(21)のR80については、ドリルタイム等で、接続詞の使い方や文の作り方を指導し、文章の内容の充実を図っていく。また、R80に何を書いてよいのかわからない児童には、使うキーワードを指定する等、R80を書く際に手助けを行う。 ・(29)については、授業での発問を工夫し、児童が様々な方法で考えることができるようにしたり、練り合いの時に多様な考えを取り上げることで、多様な考えに触れられるようにしたりするなど、教師の指導力を向上させる。			
		・「(21)算数の授業で分かったことをR80でふり返ることができる」	90%	77%			86%	B													
		・「(24)算数の授業では自分と友達の考えの同じ所や違うところを比べている」	90%	87%			97%	B													
		・「(29)課題を解決するとき、いろいろな方法を考えようとしている」	90%	82%			91%	B													
		・「(3)困っている人に声をかけることができる」については目標を達成することができた。しかし、「(2)みんなの役に立っている」、「(9)つらいことがあっても気分転換がうまくできる」については目標を達成することができなかった。特に、「みんなの役に立っている」の肯定的評価が77%で低かった。みんなのために活動していることを児童自身が意識出来ていないことや他者評価の機会が不十分なことと考えられる。																			
		豊かな心と健やかな体の育成	特別支援教育とレジリエンスを根底とした豊かな人間力と健やかな体の育成	つながる集団づくりの推進	○縦割り班活動の充実 ○SSTを活用した集団活動の実施 ○レジリエンス学級経営研修の実施 ○集団目標とその目標を皆で達成するための個人目標の設定		・自分のことアンケートで肯定的評価をした児童の割合「(2)みんなの役に立っていると思う」	90%	生徒指導部	77%		86%	B	・SSTやポジティブな声かけについて考えるなどの活動を通して具体的に行動したり意識を高めたりできるようにしていく。 ・自己評価、他者評価の場面を設定し、「役に立っている」という意識を高めるようにする。	5	0	0	・学校全体で目標を共有し、実践している事が良い。 ・みんなの役に立っていると認識できていない児童がいるのは、平常の行動は当然(普通)のことと思っているのではないかも思う。自分が行っている係などの奉仕活動が当たり前になることが常識として認識していると考えられるのではないかと。 ・クラスで孤立している児童がいない。 ・SST、ポジティブな声かけも日々、心がけることによりしっかり身につくものであると考える。 ・体力作りは自主的に児童が取り組んでいるので良い。			
・「(3)困っている人に声をかけることができる」	85%					89%		105%		A											
・「(9)つらいことがあっても気分転換がうまくできる」	85%					76%		89%		B											
粘り強さ・挑戦する心の育成	○糸小ギネスの実施 ○児童会企画行事の実施 ○自己決定や相互評価の時間の確保 ○自分への挑戦の取組			・自分のことアンケートで肯定的評価をした児童の割合「(5)一度決めたことは難しくても最後までやっている」	85%	保健体育部	85%		100%	A	・教職員間で重点課題を共通認識、情報共有し学校全体で取り組んでいく。 ・様々な活動に対して、自らが「やってみよう」、「ここまでがんばろう」という自己目標の設定を行う場を設ける。また、「なぜそれやるのか」などを考えさせることで必要感をもって取り組めるようにする。										
				・「(7)いろいろなことにチャレンジするのが好きだ」	85%		89%		105%	A											
				・「(8)ねばり強い人間だと思う」	85%		80%		94%	B											
				・「(10)自分の夢や目標のために努力している」	85%		89%		105%	A											
体力づくり・食育の推進	○体を動かす楽しさの経験(Jタイム・外遊び・体育の授業) ○食を通じた関わり合いや食文化の体験 ○基本的生活習慣の確立			・自分のことアンケートで肯定的評価をした児童の割合「(16)体を動かすことが好き」	90%		90%		100%	A	・持久走大会や陸上記録会に向けて引き続き頑張張りカードを使って目標設定をさせたり、それらに向けてRUNRUNタイムや縦割り班駅伝で、みんなで走るたのしさを味わわせるような取組をする。 ・食育指導に関しては、引き続きランチルーム給食での指導を継続し、児童が給食を通してバランスの良い食事の大切さを理解し、望ましい食習慣を身につけることができるよう、取り組んでいく。										
				・「(17)目標を持って運動に取り組んでいる」	80%		86%		108%	A											
				・「(18)栄養のバランスを考えて給食を食べている」	80%		80%		100%	A											
・「(19)苦手なものも、少しでも食べている」	80%	84%		105%	A																
信頼される学校	保護者・地域と共に成長でき、児童が安心して学べる学校づくりの推進	コミュニティ・スクールの基盤づくり	○地域の良さに学ぶ教育活動の充実及び地域貢献活動の実施 ○積極的な情報発信	・自分のことアンケートで肯定的評価をした児童の割合「(11)糸崎の地域が好きだ」	95%	教務部・総務部	97%		102%	A	・今後ともCS運営委員会との連携を密にし、地域と共に子どもを育て見守っていく学校運営を目指す。特に、学校行事や地域学習の機会を生かし、地域に学んだり、地域に貢献したりする活動の充実を図る。 ・CS活動に協力いただける人材の呼びかけを工夫する。(地域行事での呼びかけ・保護者を通じた募集やHP・ちらしの作成等)	5	0	0	・学校及び地域が人とつながる事が難しい社会で、いかにつなげるかが、CSの課題であり、工夫が必要である。 ・コミュニティ・スクールに協力していただいている方の生活のリズム感に新たな視点やサイクルが生まれたかもしれない。 ・CSの活動が、人の接し方の学びや学習意欲の向上につながる。子どもたちだけでなく大人も成長する機会にしてほしい。 ・教職員の支え合いの体制については、頑張っておられるように思う。 ・さまざまな場面で学校、CSの情報発信をして地域の皆様に周知している。 ・学校の敷居を低くし、地域の人やCSのボランティアの人達が気軽に来ていただける環境を整えている。 ・心理的安全性が良い評価になるのは、職員室の雰囲気を見ていればわかります。 ・心理的安全性のある組織にするためには、管理職のとらえ方や考え方が大切である。また、職員同士や管理職との信頼関係の構築が不可欠だと思います。						
				・「(12)糸崎のよいところを言うことができる」	90%		98%		109%	A											
				・「(13)地域の人たちと関わるのは楽しい」	90%		96%		107%	A											
				・地域参加のある学校行事を開催した回数	10回以上		9月まで7回		9月まで70%	B											
				・地域への情報発信の回覧(お便りや案内)をした回数	10回以上		9月まで7回		9月まで70%	B											
		心理的安全性が高い職場づくり	○支持的風土の醸成 ○自己研鑽による人間力の向上 ○協働的な業務の遂行(チーム糸小)	職員アンケートで肯定的評価をした職員の割合「(1)職場の中で、自分が努力していることについて認められていると感じる。」	90%		100%		110%	A	・今後互いのもつよさや強みを生かして、職員全体の力量や能力が向上できるよう取り組む。また、風通しのよい職場になるよう、様子を気にかけ合い、声をかけ合いながら助け合っていく。 ・経営委員会等での熟議を通して、学力支援や生徒指導上の諸問題への組織的な対応をさらに推進していく。										
				・「(2)『糸小学びの森』は自分の成長に役に立っている。」	90%		100%		110%	A											
				・「(3)チーム糸小で業務を遂行することができている。」	90%		85%		94%	B											